

(1) 実施機関名：

京都大学防災研究所

(2) 研究課題(または観測項目)名：

災害リテラシーの育成のためのオープンサイエンス手法の検討

(3) 関連の深い建議の項目：

4 地震・火山噴火に対する防災リテラシー向上のための研究

(2) 地震・火山噴火災害に関する社会の共通理解醸成のための研究

(4) その他関連する建議の項目：

1 地震・火山現象の解明のための研究

(1) 地震・火山現象に関する史料・考古データ、地質データ等の収集と解析

ア. 史料の収集とデータベース化

3 地震・火山噴火の災害誘因予測のための研究

(3) 地震・火山噴火の災害誘因予測を災害情報につなげる研究

地震

火山

4 地震・火山噴火に対する防災リテラシー向上のための研究

(1) 地震・火山噴火の災害事例による災害発生機構の解明

(5) 総合的研究との関連：

(6) 平成 30 年度までの関連する研究成果(または観測実績)の概要：

(7) 本課題の5か年の到達目標：

「オープンサイエンス」の手法による地震、火山、津波災害データベースの構築・共有を通じた災害リテラシーの育成に向けて研究を実施する。防災リテラシーの向上という課題について、単なる知識提供ではなく、一般市民と地震、火山研究者とが共同して観測研究や災害軽減の取り組みをすすめる「オープンサイエンス」や「オープンデータ」の思想に基づく新しい次世代型地震研究の可能性について検証することを到達目標とする。

(8) 本課題の5か年計画の概要：

以下の3つの研究を行う。(1) 地震・津波避難訓練への「オープンサイエンス」導入による防災リテラシー向上、(2) 「オープンサイエンス」による自然災害史料の解読と活用、(3) 市民参加による内陸地震観測の「オープンサイエンス」化。以上の(1)-(3)の研究の相互の情報交換により、「オープンサイエンス」の観点から、災害リテラシーを育成するための新しい手法を探る。年度ごとの計画は以下の通り。

平成 31 年度：オープンサイエンス型サイエンスミュージアムの企画、運営。運営、地震・津波避難訓練時の個人行動記録の分析、「みんなで翻刻」の改良、「満点計画」、「0.1 満点計画」の検証を実施する。

平成 32 年度：オープンサイエンスの手法による災害リテラシー育成方法を、サイエンスミュージアム、「満点計画」、改良版「みんなで翻刻」などを通して実施する。

平成 33 年度：サイエンスミュージアムの運営、「満点計画」、「0.1 満点計画」の検証を継続する。地震・津波避難訓練時の個人行動記録のオープンサイエンス的な活用を実施し、「みんなで翻刻」によって得られたテキストの災害リテラシー向上への効果の検証、「満点計画」、「0.1 満点計画」の検証を実施する。

平成 34 年度：サイエンスミュージアムの運営、「満点計画」、「0.1 満点計画」の検証、「みんなで翻刻」によって得られたテキストの災害リテラシー向上への効果の検証を継続する。地震・津波避難訓練時の個人行動記録のオープンサイエンス的な活用と検証を実施する。

平成 35 年度：オープンサイエンス型手法による災害リテラシーの向上方策について総括的な検討を行う。

(9) 実施機関の参加者氏名または部署等名：

矢守 克也 (京都大学防災研究所) 飯尾能久 (京都大学防災研究所)
他機関との共同研究の有無：有
大倉 敬宏 (京都大学大学院理学研究科)
松浦 律子 (地震予知総合研究振興会)
加納 靖之 (東京大学地震研究所)

(10) 公開時にホームページに掲載する問い合わせ先

部署等名：防災研究所
電話：0774-38-4024
e-mail：yamori@drs.dpri.kyoto-u.ac.jp
URL：http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/

(11) この研究課題 (または観測項目) の連絡担当者

氏名：矢守 克也
所属：防災研究所